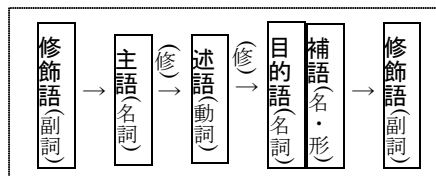


中2文法のまとめ



■中2の文法範囲

be 動詞の過去	was, were 「～だった」, 「いた, あった」
過去進行形	「was[were]+～ing」で「～していた」という過去の一時的な動作を表す
未来	「be going to～」, 「will+原型」, 「現在進行形(近い未来)」
助動詞	基本的な使い方は can と同じ。それぞれの意味をしっかりと覚えよう
to 不定詞	名詞用法「～すること」, 形容詞用法「～する(ための)」, 副詞用法「～するために, ～して」
動名詞	動詞の～ing 形の一つが動名詞で「～すること」と訳す。to 不定詞の名詞用法と書き換えができる場合、できない場合がある
比較	比較級, 最上級, as～as・・・の3つの主要な構文がある
There is (are)～.	「ある, いる」の表現。単数と複数で is と are を使い分ける
接続詞	if～, because～, when～, that～などの使い方
付加疑問文	「, 助動詞(n't)+主語？」を文末に付けて、「～だよな」という意味を表す

1 be 動詞の過去形と過去進行形

【be 動詞の変化】

主語	be 動詞(現在)	be 動詞(過去)
I	am	was
you か複数	are	were
3人称単数	is	was

※was / were の疑問文・否定文は am / are / is の場合と同じように作る
 疑問文⇒was / were を主語の前に出す
 否定文⇒was / were に not をつける

【過去形と過去進行形】

	過去形(過去の行動・状態)	過去進行形(過去の一時的な動作)
肯定文	He played the guitar.	He was playing the guitar.
否定文	He didn't play the guitar.	He wasn't playing the guitar.
疑問文	Did he play the guitar? Yes, he did. / No, he didn't.	Was he playing the guitar? Yes, he was. / No, he wasn't.

○現在進行形の疑問文・否定文は be 動詞の文と同じ作り方になる

2 未来・助動詞

助動詞は必ず「動詞の原形」とセットで使う。

疑問文は助動詞を主語の前に置き、否定文では助動詞に not をつける。

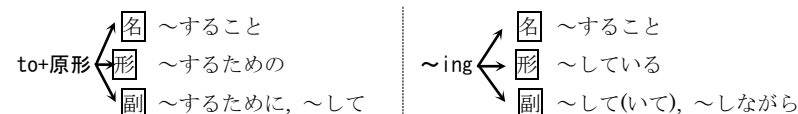
- 【例】肯定文 He will come to the party.
 否定文 He won't come to the party. ※won't = will not の短縮形
 疑問文 Will he come to the party?
 一 答え方 Yes, he will. / No, he won't.

助動詞	独自の意味	推量の意味	確信の強さ
must (≒have to)	～しなければならない	～に違いない	強 ↑ ↓ 弱
will (≒be going to)	～だろう	～だろう	
should (≒ought to)	～すべきだ	～のはずだ	
can (≒be able to)	～できる, ～してよい	～の可能性がある	
may	～してよい	～かもしれない	

※shall は will と同じく未来を表す。多くは「shall we ～?」, 「shall I ～?」の形で使う。

※must not は「～してはいけない」、don't have to は「～しなくてよい」になることに注意。

3 to 不定詞・動名詞



■to～か～ing か

to～も～ing も使う	like(～が好き) / begin(～を始める) / start(～を始める) など
to+[原形]のみ	want to～(～したい) / hope to～(～したい) / decide to～(～を決める) など
～ing のみ	enjoy(～を楽しむ) / stop(～をやめる) / finish(～を終える) など

○to～ ⇒ 未来のイメージ / ～ing ⇒ もうしていることのイメージ

○～ing だけを取る動詞の覚え方 ⇒ megafeps (メガフェプス)

※mind(～を気にする), enjoy(～を楽しむ), give up(～を諦める), avoid(～を避ける), finish(～を終える), escape(～を逃れる), practice(～を練習する), stop(～を止める)

4 比較

比較は形容詞・副詞を変化させて作る。

3パターンしかないので、細かい点に注意してしっかり型を覚えよう。

- 【例】 **比較級の文** Tom is taller than Mary.
最上級の文 Ken runs fastest in the class.
as～as…の文 Jane is as old as Bob.

▼ 規則的な変化

▼ 特殊な変化

	意味	通常	短母音 + 子音	語尾が e で終わる	語尾が y で終わる	よい / よく	悪い / 病気の	多い
原級	～	tall	big	large	happy	good/well	bad/ill	many/much
比較級	より～	taller	bigger	larger	happier	better	worse	more
最上級	最も～	tallest	biggest	largest	happiest	best	worst	most

※次のような場合には原級の前に more, most をつけて比較級、最上級をつくる

- 3音節以上の語：beau-ti-ful, im-por-tant, ex-pen-sive など
- 語尾が-ful, -ous, -ish である2音節の語：care-ful, ner-vous, fool-ish など
- 形容詞+ly でできた副詞：easily, angrily, strongly, happily, slowly など

5 There is[are]～. の文

【形】 There is[was] + [単数名詞] + ～(場所などを表す語句).
 There are[were] + [複数名詞] + ～(場所などを表す語句).

【意味】 —に～がいます[いました]。(名詞が人・動物の場合)
 —に～があります[ありました]。(名詞がモノ・コトの場合)

- 【例】 **肯定文** There is a book on the desk.
否定文 There isn't a book on the desk.
疑問文 Is there a book on the desk?
 —**答え方** Yes, there is. / No, there isn't.

6 接続詞

等位接続詞(and/but/or/so/for だけ)は語と語、文と文を対等の関係でつなぐ。
 従属接続詞は「主語+動詞～」を後ろにつけて、副詞や名詞のグループを作る。

①等位接続詞	and 「～と、そして」 / or 「または」 / but 「しかし」 / so 「だから」 命令文,+and[or]～ ⇒ …しなさい、そうすれば[さもないと]～ Harry up, or you'll be late for school.
②従属接続詞	when～ 「～する時」 / if～ 「もし～なら」 / because～ 「～なので」 ⇒文の前後(修飾語の位置)に置く ※when～や if～などの時・条件を表す副詞接の中では未来の事柄も現在形で表す 【例外】 that+文 ⇒「～ということ」という意味で目的語や主語になる(that は省略可) I know that he likes basketball.
③so ～ that …	⇒「とても～なので…」 ※so の次は「形容詞か副詞」、that の次は「主語+動詞～」の形がくる The box was so heavy that I couldn't carry it.

■ 副詞のはたらきをする節を作る接続詞 (重要なもの)

when～	～するとき [時]	until～	～まで(ずっと) [時]
while～	～する間に [時]	if～	もし～なら [条件]
before～	～する前に [時]	because～	(なぜなら)～だから [理由]
after～	～したあとに [時]	though～	～だけれども [譲歩]

※～の部分には主語+動詞が必ず含まれる

7 付加疑問

付加疑問文では「助動詞(n't)+主語？」を文のあとに付け足します。
 文末の主語は必ず代名詞(I, you, he, she, it, we, they のどれか)になる。

付加疑問文	You have a car, don't you? (←, don't you have a car? の省略)
◎「助動詞(n't)+主語？」を文末につけると「～だよな？」という確認の表現になる	Point ①疑問文にした時の最初の部分(助動詞+動詞)を使う。 ②肯定(n't なし)→否定(n't あり)、否定(n't あり)→肯定(n't なし)に直す。